

# 「世界遺産」プロジェクト

「盆栽 水石文化保存会」  
盆栽・水石文化を世界（無形文化）遺産に登録する運動を推進しています

めげずにやりぬく



尺八と琴の演奏



愛知県から署名活動に駆けつけてくれた藤岡愛石会の会員



盆栽体験ワークショップ

（二社）全日本愛石協会副理事長

藤岡愛石会会長

西山 巍

「世界盆栽大会」石友・竹友・学友

4月末に「第8回世界盆栽大会inさいたま」が開催されました。1989年に第1回を大宮市で、その後各国をめぐり再びの日本開催ということです。

日本盆栽協会と日本水石協会のご支援の下、「盆栽水石至宝展」会場で世界遺産PJの署名活動を行いました。活動では全日本愛石協会のメンバーが活躍。遠路、愛知県からは藤岡愛石会会員の落合東一、田辺好文、津坂秀雄、山本一彦各氏の応援（ボランティア）もいただきました。ご尽力有難うございました。持つべきは「石友」です。

また私の属する尺八会が大会前夜祭で尺八演奏の機会を頂き、国際親善にも微力な貢献が出来たかと思えます。こちらは「竹友」の皆さんに感謝です。

3日間の来場者数は4万5千人とか、これほど立派なイベントを実行された主催者に改めて敬意を表します。8150人もの署名を得られ、心地よい疲労感と共に帰宅しました。大会期間中に「盆栽ジュニア」会の須田将司

氏が我々の署名ブースを訪ねてくれました。さいたま市立植竹小学校卒業の「学友」が、盆栽の普及を目的に結成した大学生グループの代表者です。会場内で盆栽体験ワークショップを運営されていました。植竹小では11年前から高学年を対象に「盆栽授業」が実践されていることを知りましたし、「学友」である山田香織氏（清香園5代目）がこの活動に貢献されているとも伺いました。頑張ってください。

さて、今回の8千人余の署名の内、「水石」に「投票」いただいた方はどれ程でしたでしょうか。石への認知度は盆栽のそれには到底及びません。小学生が河原で石ころを採集する場面は想像できても、彼らに水石の面白さを理解させることは少々難しいお話でしょう。水石に関しては、人生の中年生である四十、五十歳台の方々からの新人開拓を考えなければなりません。小学校での盆栽教育は例外ケースとしても、水石界、盆栽界、ともに後継者育成のための世代別取り組みの必要性が痛感されます。

適切な文化保存活動がなければ無形文化遺産としての適性は認められないでしょうし、遺産登録されたとしても文化継承は担保されません。持続可能な盆栽、水石文化保存の仕組み作りは、今の私どもに求められているのです。関係者が参集し、課題抽出のワークショップを開催したいものです。

「関係する社会、集団及び個人の可能な限り幅広い参加を伴って提案されたものであること」「保護措置が図られていること」、文化庁が無形文化遺産保護条約運用指示書に、これら登録要件を定めています。

めげずにやりぬく

## 「世界遺産」プロジェクト

〔盆栽 水石文化保存会〕  
盆栽・水石文化を世界（無形文化）遺産に登録する運動を推進しています

（二社）全日本愛石協会副理事長 西山 巍  
藤岡愛石会会長

### 三つの土岐石展・セレンディピティの世界

愛知と岐阜の3つの会で土岐石展が開かれました。香流石遊会、土岐石愛好会、土岐石銘石会、それぞれに趣向を凝らした会場には大勢の愛好家がお越しでした。今年も逸品を鑑賞したあと、この際です、世界遺産PRの集合写真も撮影させていただきました。

石展の後、土岐石愛好会会員の柳川桂一氏を訪ねました。岐阜県加茂郡川辺町の2階建ての展示スペース、ガレージ、ご自宅四周の犬走りまでが珪化木と土岐石であふれています。飛騨川沿いの日本最古の石の発見現場や巨



柳川桂一氏のコレクション

大珪化木（県天然記念物）が横たわる里山中腹へもご案内いただきました。20億年前の岩石、2000万年前に誕生した土岐石、氏がまとめ上げた論文『珪化木について』の中で、この地方の石に関する「出来事」が詳しく述べられています。そもそも土岐石を語るには私は勉強不足ですが、珪化木から色彩石への変身過程に強い興味を覚えます。想像もつかない大きな地質変動の中で珪素に置換された木々が、再び種々の元素と結合し、多彩な土岐の碧玉を作り上げたとのこと。その不思議さが愛石家を虜にする所以なのでしょう。色調と肌合いの雅に引き込まれます。十数年前、都内にオープンした商業施設・コレド日本橋に「セレンディピティ」という名



土岐石愛好会の展示場で

のカフェと雑貨店フロアがありました（その後閉店）。響きの良い言葉に興味を持ち、意味と由来を探ったものでした。店主は「思いがけない出会い・偶然の幸運を」との思いでこの名を付けたでしょう。一生一石、遭遇、発見。石との出会いはいろいろな場面で語られます。石生成の偶然性、それを手にした採石時の幸運、まさに楽しいセレンディピティの世界です。一期一会、邂逅、再会。人との出会いも然りです。

この春、金婚式を迎えました。反省ばかりの来し方を想い、短い行く末を二人で語っています。私には見ることが出来ない50年先、日本の総人口は8千1百万人と予測され、65歳以上が40%を超える老人社会になることが深刻です。ハード、ソフト両面で、よほどの対策を講じなければ緩慢で活力のない国勢が予見されます。今15歳の若者100万人余、そのうちの何人が石を愛でる老齢65歳を迎えるのでしょうか。盆栽水石文化の50年後はどうなっているのでしょうか。自問しながら、もうしばらくは石を楽しむことが出来ればと、その幸運を願っています。

文化の生き残りには「セレンディピティ」(Serendipity)は期待出来ません。



めげずにやりぬく

# 「世界遺産」プロジェクト

〔盆栽 水石文化保存会〕  
盆栽・水石文化を世界（無形文化）遺産に登録する運動を推進しています

（一社）全日本愛石協会副理事長  
（二社）日本水石協会理事  
藤岡愛石会会長  
西山巍



## 愛知川と犬上川探石会、国民財産と公序良俗

藤岡愛石会の探石会、今回は滋賀県湖東地区でした。参加者23人、京都からは愛石誌でおなじみの山田愛さんが友人と2人で参加してくれました。

リアですが、ここから湖北にかけて、ひっそりとたたくお寺も見逃せません。JR米原駅から東へ数百メートル、住宅街に接する山裾に青岸寺という禅寺があります。枯山水の庭園が美しく幾度か訪問しました。あるとき、本堂の片隅に中ぶりの山形石を見つけ、出所を尋ねましたが、あいにく住職は留守でした。愛知川、犬上川、いずれの産かと今も気になります。このご住職、お元気に河原へお出かけでしょうか。

愛知川と犬上川、多人数のため、それぞれ上流と下流に分散して「石の採取」にいそしみました。河原の風から元気をもらった1日でした。

探石は石趣味の原点です。が、その行為が河川法（第25条）の「許可を要する土石採取」に該当するのではという懸念が時々話題になります。

湖東は「三山」に代表される有名寺社の観光エ

それでは聞いてみよう。腫れ物に触るほどではありませんが、愛石家の楽しみを削がれてはならないとの思いで、そろりと行政の窓口を訪ねました。管理河川の違いで県と市に質問を投げました。いずれの担当氏も丁寧に対応していただきました。

京都から、本誌でおなじみの山田愛さんも参加してくれた（前列右から3人目）

「公共用財産（国有財産）である河川での石の採取は、その量が極めて少なく、かつ一時的

である場合は一般使用（自由使用）に該当し、河川管理者の許可は必要としない」との「解釈」を得ることが出来ました。探石は河川での水泳や流木採集と同じ行為ということ。これは「お墨付き」ではありません。わだかまり少なく川原を楽しむことが出来る「注書き」相当かと思えます。

河川管理のルールについては、国や地方機関がホームページ等で発信していますが、愛石家の行なう「探石」は想定外でしょう。考えてみれば常識かもしれません。「国有財産」を「国民財産」と読み替えれば、節度ある趣味人の行為に対して「許認可」は適さないということ。す。「節度」は「社会通念」と「公序良俗」で律するところです。

昭和四十年代に樹石社が発行した「趣味の水石百科」と「探石ガイド百科」は人気の入門書でした。その頃、依然続いてきた狂騒の探石ブームの反省からか、河川法に言及する記述も散見されます。今日、さらなる節度で品位ある探石を心がけたいものです。

盆栽と水石は伝統的「国民文化」です。こちらは速やかに「国有文化」へと格上げし、無形文化遺産として世界に認知されることを願っています。

めげずにやりぬく

# 「世界遺産」プロジェクト

〔盆栽 水石文化保存会〕  
盆栽・水石文化を世界（無形文化）遺産に登録する運動を推進しています

## 「一生一石」・名言と家訓

7月、全日本愛石協会の「全国展in福島」が郡山市で開かれました。村上皓南氏のお迎え石「大和」に迎えられ、出展84石を拝見しました。氏の書が、石とのコンビネーションよく展示されていました。立派な石展、関係者の皆様に感謝です。

会場入り口には「一生一石」の解説資料が置かれていました。愛石家が目指すこの名言は、当地の故諸橋元三郎氏の創作と知り、知らなかった自分を恥ずかしく思った次第です。同所で協会の総会が開催され、世界遺産PJの意見交換も出来ました。

総会の後、列車で1時間余、会津若松市へ足を延ばしました。戦国・関ヶ原前後の政変と、幕末・維新の政争の中、白虎隊の悲劇で時代を画した激動の街です。マップ片手に定番スポットを巡りました。乗り降り自由のチケットを500円で購入し、巡回バス「ハイカラさん」で飯盛山、鶴ヶ城、御薬園、武家屋敷に加え、見学を勧められた野口英世青春館にも立ち寄りました。猪苗代町の記念館を訪ねることは出来ませんでした。会津若松市内のこの青春館、狭いスペースながら見応えがありました。アフリカで斃れた博士の生涯は、私が小学

（一社）全日本愛石協会副理事長  
（二社）日本水石協会理事 西山 巍  
藤岡愛石会会長

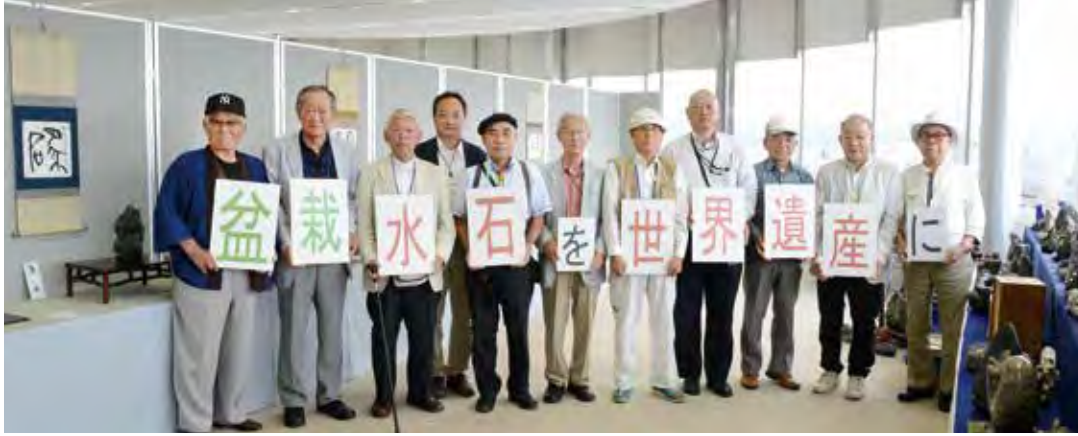
生の頃の映画鑑賞会で学びました。誤って囲炉裏に転落し火傷した場面を、不思議にも鮮明に思い出しました。博士の書「忍耐」と「神技入妙」、偉人の言葉です。「耐えて」「打ち込めば神業が生まれる」とのこと、後日、青春館の照島社長に電話し、ご教授いただきました。

飯盛山からの鶴ヶ城、お城からの白虎隊自刃の山、双方から遠景を眺め、若い藩主と、もっと若い隊士との絆の強さを偲びました。その日、午後からは雨模様。ゆっくりと城内の展示品を見ることにしました。

見学後、会津藩の「家訓十五箇条」と「日新館の心得」「仕の掟」が「絆」の源と理解しました。現代の私たちも肝に銘ずべき教えだと思います。私利私欲、依怙最良や付度に言い及んでいます。ただ、一つだけ違和感がある家訓の一条が目にとまりました。

「婦人女子の言、一切聞くべからず」です。藩主も口うるさい奥方に、よほど悩まされたのでしょうか。妻の言うことを聞かず石趣味に没頭した私としては複雑な気持ちでした。

「志を得ざれば再び此地を踏まず」  
上京の折、生家の柱に刻んだ野口博士19歳の言葉です。盆栽水石の世界遺産PJも博士の気概で進めようと思います。ご婦人からのアドバイスも受けながら。



福島展会場にて



野口英世青春館



鶴ヶ城から飯盛山を望む



めげずにやりぬく

## 「世界遺産」プロジェクト

〔盆栽 水石文化保存会  
盆栽・水石文化を世界（無  
形文化）遺産に登録する  
運動を推進しています〕

（一社）全日本愛石協会副理事長  
（二社）日本水石協会理事  
藤岡愛石会会長  
西山巍

### 「おとなの秘密基地」・こだわりの功罪

先日、テレビ愛知の取材を受けました。タイトルは「おとなの秘密基地」。いい大人がいたずらっぽく趣味に没頭する姿を紹介する番組です。今回のテーマは「水石」でした。番組制作のA氏、石に関しては門外漢ながら、「美の壺」（NHK TV）等の研究と情報入手で、若干の先入観と「こだわり」のス

トリーで迫ってきましたが、私としてはカジュアルな雰囲気と文化の紹介が出来ることを期して「出演」をお受けしました。天竜川での探石ロケを含めた4日間の取材には、この取材の紹介を下さった渡辺浩氣氏（全愛協前理事長）と石友のご支援も得て大騒ぎでした。めでたく30分の本番放映、立派に編集され

直後から、多数の皆様から電話やメールをいただき、改めてTVの力に驚かされました。この機会に「世界遺産PJ」のPRを、との希望は叶いませんでした。残念。

700年前に始まった先達の「こだわり」が伝承されて水石文化を生み出した。今、国内で約2万人がその文化を楽しんでいると推測されます。

昨年、全愛協と愛石社が水石界の現況を調べました。愛石団体が317（愛石社「全国愛石団体

名鑑」登録）、会員数5600人、平均年齢70歳、石展は年間210回。ご回答いただいた団体情報からの推定値も含まれます。団体数は10年前の415から24%の減少です。危機的です。この衰退の原因は会員の高齢化だけではなく、我々当事者が社会の変化に無策であったことにもよるのではないかと考えます。2万人、趣味を始めた動機は様々ですが、趣味人には文化を守る責務があり、全日本愛石協会と日本水石協会には仕組み作りの任務があります。石ころ探して子供たちの興味を繋ぎ、働き世代へは余暇の選択肢に石を提供しながら底辺拡大を図らなければ、と思うのです。大きな課題です。

仲間内では原理主義的な「こだわり」で石を語り、文化の高質性と差別感を演出するために展示を競い合う切磋琢磨の水石界ですが、時には、これが庶民感覚を離れた非日常の光景と映り、新人の参入を躊躇させているのかも知れません。TV局のA氏の「こだわり」からこんなことを学びました。

水石文化の大衆化は世界遺産への一つの道筋でありゴールでもあります。一地方の藤岡愛石会では、会員倍増3カ年計画を推進中です。1人が1人の後継者育成を、と思うからです。ご意見をお待ちします。



テレビ愛知「おとなの秘密基地」取材風景

めげずにやりぬく

# 「世界遺産」プロジェクト

〔盆栽 水石文化保存会〕  
盆栽・水石文化を世界（無形文化）遺産に登録する運動を推進しています

（一社）全日本愛石協会副理事長  
（二社）日本水石協会理事  
藤岡愛石会会長  
西山巍

## 「ほっとかん」・文化の起死回生

ご近所に立派な温浴施設があります。市と地元企業が出資する（株）豊田ほっとかんの経営です。ホールと図書館を備えたコミュニティセンターと老人ホーム、診療所等が隣接

する複合施設の中にあり、温水プールと地下1300mからの天然温泉が人気です。夕刻の1時間、水中歩行と温泉三昧が私の日課になっています。「水の中にも3年」、早いものです。体調良好、「ほっとかん」に感謝です。「今日は顔を見ないが、どこか悪いのか」と友人を気遣う病院待合室での老人の会話は有名小断です。

この施設でも、2、3日出向かないと、常連の皆さんから「やっと見なんだね」（しばらくぶりだね）とお声掛けをいただく「水入らず」の関係が出来つつあります。今回はその方々との集合写真です。

老人を自覚しない元気な高齢者、功成り名遂げた猛者、豊富な人生経験者との「裸」のお付き合いは心地よいものです。体に名誉の刀傷（手術跡）を持つ大病を克服した鉄人には、ことのほか親しみと敬意を感じます。

実はこの施設へ通う私の日課は、食道がん手術後のリハビリから始まりました。という事情もあり、国立がん研究センターから発表された生存率統計には自ずと目がいつてしま

いました。

「がん診療連携拠点病院院内がん登録・2008年生存率集計報告書」という名の資料です。全国209施設で2008年にがんと診断された21万4千人への追跡調査結果です。本文47ページに加え、付表で病院別の分析資料が閲覧できます。報告書前半には生存率の算出法と追跡の手法が詳しく述べられています。新聞のお悔やみ欄の確認にまで至る大変な仕事であったようです。生存率は死亡率、生死を計る厳しい数値ですが、目をそらすことはできません。結果、5年生存率は全がんで65%、食道がんは43%とのこと。昨年施行された「がん登録推進法」の下で、おそらくは私の症例も追跡されているものと思えます。日進月歩の医療を信じ、できるだけ長く生存者側に留まることが出来ればと願っています。

万人が体験する生老病死、長短強弱の違いはありますが、人にとってこの四苦は不可避です。しかし今、老いて病んでいるかに見える水石文化、その「起死回生」は可能なのです。全国の愛石団体の知恵と熱意で若返りを図り、水石2協会の組織力で病根を断たなければなりません。策を練り、「病」への特効薬を創りたいものです。



豊田市の温泉施設「ほっとかん」



「ほっとかん」の常連さん



めげずにやりぬく

## 「世界遺産」プロジェクト

「盆栽 水石文化保存会」  
盆栽・水石文化を世界(無  
形文化)遺産に登録する  
運動を推進しています

(二社)全日本愛石協会副理事長  
(二社)日本水石協会理事  
藤岡愛石会会長

西山巍



天竜川にて、藤岡愛石会の面々

## 天竜川探石と「体内時計」

藤岡愛石会で天竜川を楽しみました。新東名高速道路開通後は、静岡県内の探石地へのアクセスが容易になりました。NEXCO中日本さん有難う。今回の参加者は17人、鮎の釣り人にご迷惑なきよう、水辺では静かに探石でした。

天竜七石、何度訪れても楽しく魅力ある清流です。早々に良石を揚げる人、弁当を楽しむ人、集合間際まで歩き続ける人、3カ所ので数時間、それぞれが気ままに河原を満喫しました。一般参加の田中久勝氏(「石」の看板保持)は初めての探石でしたが、大小の収穫に満足げでした。河原での集合写真をご覧ください。若者グループの様に元気いっぱいです。やっぱり現場はいいですね。「短い一日」でした。

トもういくつ寝るとお正月…、大晦日の風呂上がり、親が準備してくれた新しい下着の温かさは格別でした。子供のころの時間はゆつくりと過ぎ、楽しみな行事が待ち遠しかったことを思い出します。しかし今日の「一日」は瞬く間に過ぎ、西年の一年も慌ただしく去ってしまいました。物事すべてが早く、過去になるのです。1日86、400秒、数年に一度、1秒の誤差でしかない正確

な地球の自転速度に対し、私の体内時計は遅れ気味です。代謝機能の衰えが自転を捉えきれずに、周囲が速くなったと勘違いをしているのだそうです。

昼夜の生活パターンにもズレが生じています。その昔、子供に言い聞かせた早寝早起きが日常になってしまいました。夜9時にはすでに眠気がし、早朝目覚めの毎日です。石友の皆様はいかがでしょう。

加齢現象は寂しい限りですが、決してネガティブに受け止めてはなりません。「長い一日」を取り戻し、成年の一年をゆつたりと過ごしたいものです。「体内時計」を発見した米国の3博士がノーベル賞を受賞しました。この時計の修理、どうすればよろしいのでしょうか。

さて、世界遺産PJです。多くの候補案件の中で、「盆栽・水石文化」に白羽の矢が立つまでには歳月を要します。交渉力、忍耐力、政治力の総合力でPJを推進せねばなりません。早や3年後は東京五輪、4年後はオーストラリアでは世界盆栽大会、10年後はリニア新幹線の開通です。大きなイベントに合わせての文化の発信力も必要です。次の10年、おそらくは、あつという間なのでしよう。私の「人生時計」はいつ停止するか分かりませんが、それまでに朗報が届くことを期待しています。

足元の2018年はPJの全国展開と、各地の愛石団体へのアプローチを企画したいと考えています。ご協力をお願いします。

〈ご意見・お問い合わせ等のメール〉 b\_s\_sekaiisan@yahoo.co.

〈署名実績〉 26,065人 (2017年11月22日現在)



めげずにやりぬく

# 「世界遺産」プロジェクト

〔盆裁 水石文化保存会  
盆裁・水石文化を世界（無  
形文化）遺産に登録する  
運動を推進しています〕

（二社）全日本愛石協会副理事長  
（二社）日本水石協会理事  
藤岡愛石会会長  
西山巍

最近、12歳の少女が腹話術でアメリカカン  
ドリームを叶えたことをご存知でしょうか。米  
国のオーディション番組で披露した彼女の演技  
は、観客を魅了しました。

日本のこの分野、かつては川上のぼるの  
ミカルな演芸に笑い、最近はいっこく堂の不

## ロゴス腹話術研究会・泣きと笑い

ティアの公演活動をされています。この日の  
会場の一室、ドアの向こうはメルヘンの世  
界、クリクリの目をした無垢の人形たちが一  
斉に私を迎えてくれました。術者と人形の掛  
け合いのテンポの良さに引き込まれました。  
この術は紀元前の発祥と知りましたが、人



ベトナム水上人形劇



チェコの操り人形



インドネシア人形劇

思議な話術に感心したも  
のです。が、彼らプロの  
世界でなく、趣味として  
の腹話術活動には、かね  
てより関心がありました  
ので、地元の愛好家グ  
ループの例会を訪ねまし  
た。ロゴス腹話術研究会  
の支部・豊田腹話術で  
す。「春風赤とんぼ」こ  
と宇野政博氏（80歳）を  
リーダーとする8名の小  
組織ですが、教職経験者  
の多いベテランぞろいで  
す。幼稚園から老人ホー  
ムまで、精力的にボラン

ロゴス腹話術研究会の支部、豊田腹話術の例会にて

形を相棒とし始めた  
のは18世紀半ばから  
とのこと、大衆文化  
としては比較的新し  
いものです。いま、  
交通安全を学ぶ子供  
たち、オレオレ詐欺  
を聞く老人たちには  
は、人形はあたかも  
道を説く伝道師と映  
るのでしよう。一人  
二役の術者の皆さん  
のご活躍を期待して  
います。

世界には「人形」  
の無形文化遺産が8カ国で7件存在します。  
2003年に登録された日本の人形浄瑠璃文  
楽は、その筆頭格でしょう。勸善懲悪、因果  
応報、信仰心、夫婦愛を人情斬に込めて謡い  
演ずる芸術は、世界に誇る人形文化の極みで  
す。チェコの人形劇、インドネシアの影絵芝  
居ほか、各国それぞれに伝統を継承していま  
すが、人形が体制批判や庶民の不満の代弁者  
となった時代を経たものが多いことを知りま  
した。プラハの街の店先には明るい表情の操  
り人形が並んでいます。厳しい歴史の背景  
を思わねばなりません。因みに腹話術師の福  
大介氏（全日本あすなろ腹話術協会理事長）  
は、文楽が「泣き」の人形文化、腹話術は  
「笑い」のそれだと述べています。言い得て  
妙です。

さて水石文化です。静的で内面的な感性で  
石を愛でる文化として誇り高く実践されてい  
ますが、世間への訴求力は、社会への貢献度  
はと、改めて問いかけてみる必要があります。  
後継者不足、集客力不足、水石人気の  
かげりは、「泣きと笑い」を伴う大  
衆向けの活動が不足していること  
も一因ではないでしょうか。真因  
にたどり着けば解決策は見えてき  
ます。ご意見お待ちしております。



めげずにやりぬく

# 「世界遺産」プロジェクト

〔盆栽 水石文化保存会〕  
盆栽・水石文化を世界（無形文化）遺産に登録する運動を推進しています

（二社）全日本愛石協会副理事長  
（二社）日本水石協会理事 西山 巍  
藤岡愛石会会長

## 豊田竹友会演奏会、明頭来暗頭来…

市の能楽堂での尺八演奏、豊田竹友会この1年の総仕上げです。琴古流師範格の奏者に加わり、末席にて参加しました。私の腕前、一向に上達しませんが、土曜日毎の練習会で会員の皆様との交流を楽しんでいます。本間影堂氏を会長とする24名のグループです。私からは遠慮がちに「石」をPRし、世界遺産PJへの理解活動を進めています。今回も演奏の合間、集合写真撮影に協力いただきました。



〈上〉豊田竹友会演奏会（能楽堂にて）  
〈右〉皆さんの記念写真

「呂々」<sup>リョリョ</sup>「唳々」<sup>リョリョウ</sup>「嫋々」<sup>ジョウジョウ</sup>、吉川英治が『虚無僧系図』の中で表現した尺八の音色です。時は吉宗將軍下、所は甲州街道。沓えわたる低音の響き、長い余韻、よくもこんな言葉を選んだものです。「呂」は「甲」の1オクターブ下の低音階、呂と甲の吹き分けが魅力的な楽器です。

日本伝統音楽の尺八は、1982年に国の重要無形文化財に指定され、5人の人間国宝を輩出しています。現在の保持者は青木鈴慕氏（82歳）お一人ですが、尺八文化はしっかりと伝承の仕組みに組み込まれています。芸能、工芸全体で人間国宝は116人の個人に加えて、30の保存会組織が重要無形文化財保持団体として総合認定されています。尺八には団体認定がありません。広く大衆に門戸を開いていることと、流派を跨ぐ統一組織の不在からかと推察されます。

「盆栽・水石文化保存会」は、2016年1月に発足しました。水石2、盆栽4団体が結束し、世界遺産プロジェクトと文化保存活動を行う組織ですが、いまひとつ盛り上がりません。議論と意識が未熟であったが故と反省しています。昨年の世界盆栽大会を機に関心が高まり、無形文化遺産登録への新しい展開も始まりました。めげずに体制整備を目指したいと思っています。

普及の「明・暗」の経文（偈）は、「何事にも柔軟な対応を」との教えと理解します。肝に銘じ「一石成仏」、石を愛でながらこの1年を楽しみます。

めげずにやりぬく

## 「世界遺産」プロジェクト

〔盆栽 水石文化保存会〕  
盆栽・水石文化を世界（無形文化）遺産に登録する運動を推進しています

（二社）全日本愛石協会副理事長  
（二社）日本水石協会理事  
藤岡愛石会会長  
西山 巍



## 台師原田和也さん、そして今日は何の日

水石は、盆栽、和食、和装等と同じく「生活文化」だと言われているようです。芸能でもなく工芸でもない、複合的な生活密着型文化ということでしょうか。たしかに石を趣味とする中で遭遇する場面は多様です。中でも技術的に難しい工程は作台でしょう。私の場合、自作の台座は人様にお見せするものにはならず、専門家の「台師」に頼ることに慣れてしまいました。

先日、名古屋市北部の原田和也氏の工房を訪ねました。底面に「和」と刻字された台座の上の私の駄石も生まれ変わっていました。氏はこの道一筋、水石を学び漆を体得しての台師40年であった由。全国からの作台依頼があるようですが、最近はめっきり少なくなつたと憂えています。水石文化を支える匠に元気を注ぎ込みたいものです。

因みに氏のお父上は盆栽業の傍ら「志蒞埜庵」水盤を製作した陶芸家でした。工房へ出かけたこの日は「禁酒の日」でした。今の車、始動時にその日の「記念日」情報が音声案内されます。日付の語呂合わせでクスツと笑



（左）『今日は何の日』と『366日 記念日事典』

える「日」もありますが中味は真面目、1年に1600を超す記念日があることに驚き、その管理の仕組みが気になりました。日本記念日協会が27年前からそれを仕切っていることを知りました。記念日をビジネスに、瓢箪から駒の発想です。ブームを先取りした世界遺産アカデミー然り、今でこそ当たり前になった終活ビジネスも札幌の法人がその先駆とか。時代を読み、社会の変化を敏感に感じて需要を発掘喚起する機転に脱帽です。

「StarRegistry」を（）存知でしょうか。宇宙の星に命名する米国発祥のビジネスです。奇抜な遊び心に夢を感じます。20年前、84歳で「買った」ペガサス座の14等星は「私たち」の旅先です。お互いに相手が迎えてくれるものと思ひながら、時には夜空を眺める夫婦です。

話は逸れましたが、水石界活性化のためには、旧態依然感を払拭した新感覚の発想が必要であると言いたかったのです。

盆栽界には活動の多彩さと世代の取り込みに一日の長があります。水石界も追いつかねばなりません。5月第2土曜日は「盆栽の日」、石の日は年2回。さて、いつでしょうか。酒を酌みながら「禁酒の日」の検索も。



めげずにやりぬく

# 「世界遺産」プロジェクト

〔盆栽 水石文化保存会〕  
盆栽・水石文化を世界（無形文化）遺産に登録する運動を推進しています

（二社）全日本愛石協会副理事長  
（二社）日本水石協会理事 西山 巍  
藤岡愛石会会長



## 関西展開催・石銘と席銘

今年も岡山後楽園で全日本愛石協会関西展が開催されました。山陽愛石会の28石を加え、全77石が豊敷きの鶴鳴館に並び、落ち着いた雰囲気醸し出していました。

初日の懇親会、即売会も段取りよろしく楽しいものでした。山陽の内田会長はじめ関係者の皆様に感謝申し上げます。

翌日の会場で、広島市の小林實氏から床の間飾りの勘所をご教授いただきました。なかでも石銘は飾り終えてからの一ひねりとお聞きしたこと、なるほど思いますがも少々の驚きで受け止めました。石銘ではなく「席銘」をとの示唆と理解しました。小林氏の砂谷石の「この日」の銘は「里山」でしたが、次の席では何と命銘されるのでしょうか。因みに、氏の名刺裏面には「Horticulturist」とありました。辞書を繰ると「園芸家」と和訳されますが、お話を伺う

ても言及され、命銘に至る過程を自己研鑽の機会と捉えています。同じく堀泰洋氏（武相愛石会会長）は、作銘のご苦労を『愛石の銘』に纏めて出版されました。

石とにらめっこをしながら、結局は無銘での出展が多くなる私です。研鑽と心眼の不足を痛感しますが、今回小林氏から命銘のタイピングを教えられた後は、少し肩の力が抜けた気がします。

石銘の有無については、先達識者の間で功罪賛否二分されています。有銘、無銘、双方とも是とすべきでしょう。今回の関西展では46石が無銘でした。私の1石、会場を後にする頃には幾つかの名前が浮かんで来たものです。

それにしても、最近の子供の名前は難しく奔放なものになったものです。名前は我が子への最初の贈り物。太郎花子感覚ではない、一ひねりの命名に若い両親の想いが感じられます。水石文化浸透のためには、石にも翔ぶような命銘がよろしいのかもしれない。外国語、流行語いずれでも良し、趣ほのかな銘にたどり着きたいものです。

石展開催の季節となりました。秀銘の名石に出展者の心を感じ、無銘の秀石には審美の目を開けて会場を巡りたいと思います。



（上）岡山後楽園鶴鳴館にて  
（右）初日の懇親会の模様

につけ風流韻事の「好事家」とお見受けしました。水石飾りについては全日本愛石協会の元理事長・渡邊浩氣氏の「身近で楽しむ水石」（『愛石』平成22〜25年連載）は貴重なバイブルです。この中で石銘について



左より西山、下村、古久保、浜中、九谷、立畑各氏。右は施無畏寺の桜



## 「みんなでいこら」世界遺産

月刊「愛石」の取材に同行し、和歌山県田辺市で古谷石愛好家にお会いしました。最高齢90歳、和気あいあいの皆様でした。名石の撮影後は、石ゆかりの地をご案内いただきました。有難うございました。

紀州和歌山では、関西の他府県と比べ抑揚や意味の異なる言葉が話されていますが、その多くが死語になりつつあるようです。し

月報

めげずにやりぬく

## 「世界遺産」プロジェクト

〔盆栽 水石文化保存会〕  
盆栽・水石文化を世界（無形文化）遺産に登録する運動を推進しています

かしこの日の写真の6人は同県人、方言を交えた石談義は大いに弾みました。

芥川賞小説『おらおらでひとりいぐも』の中に、方言に関する納得できる述懐がありました。主人公の桃子さんが、東京では素直に「おら」と言えずに躊躇した件りです。五十年前、和歌山弁から愛知の言葉への変換に困っていた私自身が重なりました。

——いこらいこら言うたかて、生石の山にまだ雪あるもん。

おいなおいなて言うたかて、有田の川のまだ水ひやこいもん。

来てみな来てみな言うたかて、せむい寺坂にさくら咲いてないもん。

はよ来いはよ来い言うたかて、天州の浜のまだ波高いもん。

生石の山の雪もとけて、有田の川の水もぬくなって、せむい寺坂のさくらも咲いて、天州の浜の波ちっそうなった。いこらいこらよみんなでいこら——

紀北地方の春を待つ童謡です。「いこら」は「行きましよう」、「おいな」は「おいで」の意味です。昨年86歳で他界した姉が若いころに口ずさんでいた歌です。歌詞の全文を、遺品の蔵書『紀州民俗誌』（S44年・逸木盛照編）の中に見つけました。何とか面白い詩

（二社）全日本愛石協会副理事長  
（二社）日本水石協合理事 西山巍  
藤岡愛石会会長

文なのでしよう。

田辺市からの帰路、供養にと2カ所の「歌枕」を訪ねました。湯浅町の施無畏寺は坂の上にひっそりと健在でした。天州の浜は「稲村の火」の逸話の町・広川町の海岸でしたが、埋め立てられ地名までもなくなっていました。公園に保存された防潮林を歩き、白砂の浜を想いました。近くの食堂の屋号「天稜屋」に地名の名残がありました。昭和初期かと思われるこの童謡、今は歌われなくなりましたが復活が望まれます。

物事、壊れるのは瞬時です。この歌もわずか100年で忘れられたのです。時代を経て築きあげられた水石文化も例外ではありません。高齢化、後継者不足で体力の衰えた文化の現実を認識し、強い危機感を持たねばなりません。石友が結集して保存活動を展開いたしましょう。有為有策「みんなでいこら」です。

\*「稲村の火」1854年の安政南海地震津波に際しての出来事。村の高台に住む庄屋の五兵衛は、地震の揺れを感じたあと、海水が沖合へ退いていくのを見て津波の来襲に気付く。下で祭りの準備に勤む村人たちに危険を知らせるため、五兵衛は自分の田にある刈り取ったばかりの稲の束（稲むら）に松明で火をつけた。火事と見て、消火のために高台に集まった村人たちの眼下で、津波は猛威を振るう。五兵衛の機転と犠牲的精神によって村人たちはみな津波から守られた。



めげずにやりぬく

## 「世界遺産」プロジェクト

〔盆栽 水石文化保存会  
盆栽・水石文化を世界（無  
形文化）遺産に登録する  
運動を推進しています〕

（二社）全日本愛石協会副理事長  
（二社）日本水石協会理事  
藤岡愛石会会長  
西山 巍

# 藤岡愛石会石展・活性化 「WE LOVE 石」



5月5日、6日に開催された藤岡愛石会の石展は今年も盛会でした。出展69石、2日間の来場者400人、世界遺産署名284人。今回は市教育委員会の文化交流助成事業「デカスプロジェクト」に認定され、「石・尺八・山野草のコラボ」行事として実施しました。当会の中島、田辺両副会長の粘り強い折衝で成果を出してくれました。2

人の「めげずにやりぬく」気概に脱帽です。凛と引き締まった会場で観賞する石展とは雰囲気異なりますが、当会は多彩さと大衆性が売り物です。子供たちの宝探しコーナーや、梨本嘉信氏の竹細工展示も好評でした。

尺八演奏と相撲甚句披露の後、観客の皆さんと共に撮影した集合写真は良い記念になりました。皆様のご来場とご協力を感謝いたします。藤岡愛石会石展を名物行事として定着させ、文化の発信と地域の「活性化」に貢献したいと思っています。

昨年、愛知県豊田市で「WE LOVE とよた」条例が施行されました。わずか2条の短い法令

ですが、「わくわくする世界一楽しいふるさと」づくりを標榜しています。老若全市民に向けたメッセージですが、高齢化が加速する環境下では時宜を得た対応だと思えます。かつて世界を目指した世代が古希傘寿米寿を迎え、再び世界一に挑戦することは、わくわく楽しいかぎりです。こういう気持ちを再燃させることが条例の狙いだったのかも知れません。地元を「楽しみ、もっと楽しく」がキーワードであると、解説書が述べています。これを機に、いくつかのチャンネルで実施されてきたこの町の「活性化」運動も、整理拡充されていくことでしょう。結構なことです。

さて、水石界の「活性化」対応です。「愛石」6月号に、これらを話し合う座談会への参加者募集の広告を掲載しました。全国の愛石家が抱えている問題意識から抽出された諸課題を対策に代えるためのワークショップです。当然ながら即効特効の対応策は期待できませんが、全国300余の愛石団体とそのメンバーが、同じ目標に向かう姿を作り上げたものです。藤岡愛石会も会員倍増、蔵石の散逸防止、世界遺産PRに微力ながらチャレンジを始めています。サインは「WE LOVE 石」!!



（上）尺八演奏後、観客の皆さんと共に撮影した集合写真  
（右）勢揃いした「WE LOVE とよた」のはつぴ姿

めげずにやりぬく

# 「世界遺産」プロジェクト

〔盆栽 水石文化保存会  
盆栽・水石文化を世界（無  
形文化）遺産に登録する  
運動を推進しています〕

（一社）全日本愛石協会副理事長  
（二社）日本水石協会理事  
藤岡愛石会会長  
西山巍



## 加賀錦石・文化の証

加賀愛石会の石展を訪ねた日は、本降りの雨でした。会場はJR北陸線加賀温泉駅から南へ数分の保賀町・町民会館です。川上文学会長のご説明で、展示の27石を鑑賞させていただきました。

北陸と中部は飛騨地域を挟んでの隣接地です。出品石は我々中部圏人にも馴染みの石種でした。

福井県の尚山会・高橋勝治会長にご同行いただき、会場近くの堀口兵衛氏と中村登美男（2代目・夢石）氏のご自宅を訪ね、加賀錦石を拝見しました。ご高齢のお二人ですが、若いころは力持ち、蔵石は大物でした。昭和38年に地元で発見した硬質色彩石を「加賀錦石」と命名し、全国に知らし

めたのは中村氏の父上・初代夢石氏です。応接間には由来石「鞍掛山」が鎮座していました。これも重量級です。記念すべき日本の銘石を拝見し、しっかりと伝承しなければならぬと思います。

昭和38年は石ブームのさ中ピク、さらにその後の日本は「経済大国」「Japan as



（右）加賀愛石会石展会場にて  
加賀錦石「鞍掛山」

「No.1」と浮かれながらバブルへ、そして崩壊へと三十年の盛衰を経験したわけです。はじけることなど誰も予想しなかった日本のバブル、その終焉近い昭和63（1988）年に長崎県波佐見町の陶業関係の皆さんをポルトガルで受け入れたことを思い出します（当時私はポルトガルに駐在していました）。江戸時代以降に欧州に流出した肥前・古伊万里を買い戻すためのミッションでした。ポルト市内の骨董品店を巡り、高額な購入をされましたが、それらの作品は今も波佐見町の資料館に展示されているでしょうか。

高品質の絵画や工芸品は、時々国力に惹かれて国境を越えます。今は少し元気がない日本です。水石の逸品も知らぬ間に海を渡るかもしれません。「文化の証」としての銘石は、宗家・日本が守らなければなりません。全国で個人が所有する銘石を、組織化された散逸防止の仕組みに取り込む施策が必要です。因みに、日本水石協会が二十年前に始めた「重要水石・用具」の認定作業、2011年までに3回実施され、399点が写真集に収められています。登録品のたな卸しと、システムの電子化での再開が望まれます。

全国にある「文化の証」を世に出し、守りましょう。

〈ご意見・お問い合わせ等のメール〉 b\_s\_sekaiisan@yahoo.co.



めげずにやりぬく

## 「世界遺産」プロジェクト

〔盆栽 水石文化保存会〕  
盆栽・水石文化を世界（無形文化）遺産に登録する運動を推進しています

（二社）全日本愛石協会副理事長  
（二社）日本水石協会理事  
藤岡愛石会会長  
西山巍

## 「体力測定」・小品水石の魅力

この時期、石展、探石行事が多く、私なりに忙しく楽しませていただきました。

石展訪問先では、会員の高齢化と会員数の減少の話題が挨拶のような日常になってしまいました。組織が息切れをし「体力」が低下しているのです。訪問した石展を表にしてみました。展示規模、人数、一人当たりの出品

〈石展分析表〉

団体名	出品石数	出品者数	1人平均
A	32	7	4.57
B	47	11	4.27
C	54	13	4.15
D	27	8	3.38
E	63	21	3.00
F	44	15	2.93
G	40	18	2.22
H	55	25	2.20
I	25	16	1.56

数が体力測定の本チマークになるかもしれません。単独で規模を維持する努力や、合同展で体力低下を防ぐ工夫はいろいろも的確です。乗客がスマホに熱中する静かな電車内、青信号での車の発進が一呼吸遅れるス

マホドライブの時代です。残念ながら石文化は若い世代から一顧だにされないようです。さてどうすべきでしょう。

皆さん、岩井楽石氏をご存知でしょうか。石ブームの昭和三十年代から鮎沢占魚氏や大内探石氏、村田圭司氏らと共に水石会を牽引したりリーダーのお一人です。軽妙なタッチで石の面白さを語った著書『愛石旅行・お色気見聞記』（昭和48年樹石社発行）を読み返しました。著書の中で「小さくても趣のある石を愛好する時代が必ず来る」と提唱し、名古屋で日本寸石協会を立ち上げて小品水石の普及を実践されました。若かりし頃、私も少なからずその影響を受けたものです。いまだに河原では小物に目が行ってしまいます。先日訪問した天竜水石会は占魚氏の薫陶を受けた豊橋の愛石団体ですが、その会の副会長・彦坂石転氏から、小品で愛好者増加を提案されました。偶然にも楽石氏と占魚氏が重なったわけです。

小品盆栽は若い女性層に人気です。女性や都会のマンション暮らしの皆さんに向けて小品水石の魅力を提供し、「一顧」を得ることが出来れば「体力」の向上に資するかもしれません。「寸石愛好会」を立ち上げてみませんか。



(上) 藤岡愛石会探石会 (2018/6/3 青川、員弁川)  
(中) 天竜水石会石展 (2018/5/20 豊橋市)  
(下) 静岡県西部連合水石展 (2018/5/26 菊川市)



めげずにやりぬく

## 「世界遺産」プロジェクト

〔盆栽 水石文化保存会  
盆栽・水石文化を世界（無  
形文化）遺産に登録する  
運動を推進しています〕

（二社）全日本愛石協会副理事長  
（二社）日本水石協会理事 西山 巍  
藤岡愛石会会長



神居古潭探石（7月2日、石狩川にて）

## 北海道展・石韻と心象

6月29日から開催された「全日本愛石協会 全国展in北海道」を訪ねました。海外からの出展6石を含め89石が札幌市民ギャラリーの会場に並び、立派な石展でした。菅生峰隆理事長、木村彰専務理事はじめ関係者の皆様のご尽力に感謝申し上げます。

協会の年次総会後には、2人の講師による講演会が行われました。米国の愛石家イライアス氏（協会常務理事・米国南風樹石会会長）からは「諸外国の石 Suiseki beyond Japan」のテーマで米、欧、アジアの水石事情が紹介されました。なかでも北米各地の探石地開拓は興味深いものでした。かつてのForty-ninersのように、ロッキーマウンテンに愛石家があふれるのではと楽しみです。

もう一人の講師・水上祥邦氏（協会相談役・旭川水石会会長・書家）は、「水石文化の大衆化」について、変化する生活様式との調和の重要性を書家の感覚で分析し、石展運営等に関する課題も指摘されました。聞き手は40人、お二人から示唆に富むお話を拝聴することが出来ました。

さて石展閉会の翌日は神居古潭探石です。菅生、木村両氏の先導で、海外からの石友12人と共に深川方面へ向かいました。褐色でわ

ずかに磯の臭いがする河原でした。集合写真の撮影後、私は一行と別れ、旭川市内に神居水石庵（陶山建雄氏）を訪ね、旭川水石会の皆様と懇談させていただきました。その日の水上会長との隠れ家風レストランでの昼食は美味でした。有難うございました。

神居古潭石は吉田凡石氏なしでは語れません。今回の北海道旅行に先立ち『吉田凡石・石の美と心』を取り寄せました。吉田凡石・立畑編集長両氏の合作になるこの書籍、機知に富み格調高い博識のエッセイと、掲載された石のすばらしさに惹き込まれます。石韻を心象で受け止めよ、と遺稿が教えています。凡石氏は存命なら今年74歳、この世界ではまだまだ「壮年」世代です。残念です。因みに誌上で掲載された石は32石、その内のいくつかは愛石社と神居水石庵でお目にかかりましたが、現代の伝承石とも言える多くの遺愛石は今いずこにあるのでしょうか。

実り多い北海道旅行でした。もとより「石」の国際化と大衆化は重要課題であります。早期に組織立った対応が必要です。重要水石の保存と散逸防止策もまだまだです。発奮し、愁眉を開かねばと思った次第です。



# 水石文化座談会



7月29日、月刊「愛石」会議室にて行われた座談会

左より石垣幹生、山田 愛、田旗亮介、西山 巍、高橋 稔、神 康文、荒木英弐各氏（立畑写す）

水石文化座談会を開催し、呼び掛けに応じて頂いた8人の石友が意見交換を行いました。（表1）

私達がよもなく愛する「石」。その周辺で何が起こっているのでしょうか。水石文化を守り、愛石趣味を楽しむ環境を今後も維持することが出来るのでしょうか。

そういう問題意識に動機づけられて企画し、次の2テーマを用意しました。

- ① 愛石界の活性化のために、「何を」すべきか
- ② 水石文化の保存のために、「何を」すべきか

座談会での議論は若干散漫にはなりましたが、参加者の熱い思いが飛び交う4時間でした。特に若い世代からの発言は新鮮で、水石界に明るい灯をもたらしてくれました。

全国には314の愛石団体があります（2018年3月愛石社調べ）。2年前は369でした。近年、会員の高齢化により活動が制約され、やむなく解散に至るケースが多くなったようです。誠に残念です。やはり高齢化には抗せないのでしょうか。参加者からの答えは「否」です。

今から半世紀前は石ブームの中で全国が熱中症状でした。そのころの日本は人口が1億人を超え、若さと活力が漲っていました。50年後の今、人口は1億2千7百万人、増加したのは「高齢者」のみです（表2）。長寿の成果と少子の結果です。高齢者人口は50年で5倍に膨れ上がりました。高齢者の趣味と言われる「石」の世界、その「市場」が3千万人を超えたのです。「若い高齢者層」へのマーケティングで市場を開拓し、活性化することが出来るはず。高齢化をネガティブに捉えてはなりません。さらに50年先、減少する人口の中で元気な老人が溢れるのです。その頃に高齢者となる現代の「ティーンエイジャー」にアプローチし、文化を託すことも忘れてはなりません。

座談会ではいくつかの提案がありました。目新しさには欠けるかもしれませんが実施せねばなりません。

誰がやる？ やるのは私達「愛石者」です。

キラ星のごとく現れた若手、田旗、神、山田3氏がこの世界の救世主になることを期待します。

（西山巍）

# 水石文化座談会に出席して

菊川水石会員 田旗亮介

迷走台風12号が三重県伊勢市に上陸した7月29日、東海道新幹線はダイヤの乱れもなく愛石社会議室で開催された水石文化座談会に

出席することが叶いました。

私、田旗亮介は当年48歳。並み居る諸先輩がたに暖かく迎えて頂き、僣越ながら大いに思うところを吐露させて頂きました。

小学4年生から父に連れられ沢や河原を探りしてきた私は、水石趣味だけは38年となりましたが、ここ最近の10年ほどはあまり熱心に水石趣味と向き合っていませんでした。

今年1月に父(享年74)を亡くし、残された水石たちを引き継ぐとともに水石趣味に本腰を入れる事を霊前に誓いました。しかし、この10年で私を取巻く水石界は大いに変転し、父とも親交のあった水石界の大家と認められる方々が次々と鬼籍に入られました。

所属する水石会では新入会員もなく、御高齢な諸先輩だけの石展会場の設営や展示は大変な作業になるばかりです。同じ様な問題は全国各地の水石団体でも起こり、将来の水石界に暗雲を漂わせています。この危機感を共有する石友が集う今回の座談会で、活路を見出すために不肖の身ながら参加致しました。

座談会で揚げられた意見を3つの項目に分類すると、

- ① 水石文化の確立と継承
- ② 人材の確保と普及
- ③ 組織力(人材・資金)の確保に纏められました。

①「水石文化の確立について」交された意見では、水石は難解であるというイメージを払拭するために、水石趣味のルール：水石の手入れ方法(やって良い事悪い事、天然自然石の定義)等を画一化して共有すること。

「文化継承について」は、水石の由来(産地・銘・共箱)を明確にして後世に残す。指導を目的とした探石会・勉強会を実施する。また伝える場として水石文化交流館を設けるとか、テレビ・書籍等で情報発信を積極的に

(表1)

座談会参加者(五十音順)			
氏名	年齢	住所	所属
荒木英式	77	千葉県	全日本愛石協会会長
石垣幹生	66	千葉県	全日本愛石協会専務理事、日水同人会事務局長
神 康文	30	東京都	春花園 BONSAI 美術館館長
高橋 稔	66	埼玉県	秩父石酔会会長
立畑健児	69	東京都	月刊「愛石」編集長、全日本愛石協会事務局長
田旗亮介	48	静岡県	菊川水石会会員
西山 巍	75	愛知県	全日本愛石協会副理事長、藤岡愛石会会長
山田 愛	26	京都府	画家

(表2)

日本の人口推移				
	a	b	b-a	50年後
	50年前 1967年	現在 2015年	増加	2065年
総人口	100,243 千人	127,095 千人	26,852 千人	88,080 千人
高齢者人口 (65歳以上)	6,666 千人	33,868 千人	27,202 千人	33,810 千人
高齢者比率	6.6%	26.65%	(20.05)	38.38%



行う、等の意見が出ました。

②「新しい人材の確保と普及について」は、水石趣味入門へのきっかけ作りとして、展示会場での水石関係書籍の販売等で来場者へのPR活動を心がける。愛石界のスター（カリスマあるいはアイドル的存在）を出現させる。ブログ・SNSなどインターネットを活用して広く情報を発信する、等の意見。環境作りとして初心者向けの探石会を開く・身近な寸石愛石会や女性だけの水石会を作る、等の意見が出ました。

③「組織力（人と資金）の確保について」は、全国組織の組織力を強化し、地方団体との連携を密にすること。活動の支持者や協力を者を全国に募り、人と資金の確保を図ること。寄付金募集や公共機関への助成金申請も検討する、等々の意見が揚げられました。

水石界の活性化を図ろうにも、人材と資金力なくしては一步も前に進むことは叶わず、有志によるボランティア精神だけでは活動に限界があり、意思を継ぐ者が現れなければ総てが水泡に帰してしまうと思うのです。

ここまで座談会で議論された内容について私なりに記述してきましたが、読者の皆さま方ほどの様に感じられたでしょうか？ 恐らくは「今更その様な事を言われなくても分かりきっていることだ」と思われたことでしょうか。そうです、皆様一様に危機感を募らせ、何か行動を起こさなければとお考えに

なっているに違いありません。

しかし、憂えているだけでは物事は一步も前に進みません。こうして有志の人々が顔を合わせ、意見を交換し、活字となって広く水石界の皆さんに知れ渡り、第2回・3回と座談会が開催されるうちにより良いアイデアが生まれます。1つずつ小さな行動でも良いから実現し、やがて大きな波紋へと広がって行くのです!!

この座談会の発起人である立畑・西山両氏の呼びかけで、すでに誌面で活躍の山田氏をはじめ、神氏、田旗の若手が行動を起こしました。西山氏の世界遺産プロジェクトの署名活動が大きな波のうねりを生み出したように、少しずつでも水石界の活性化に繋がるのであれば、私もできる事から（ブログ発信などを通して）行動に移していきたいと思っています。

ほんの15年ほど前までは中央の水石団体も活発であり、我々地方の水石団体は自らの会の維持運営だけを考えて行動していれば良い時代だったのですが、このまま会員の高齢化が進み会員の減少が進めば、小団体の統合や活動休止・消滅は歯止めが掛からないのが水石界の現実です。今こそ水石趣味家が一丸となつて、日本の水石文化の美しさ・楽しさ・奥深さ・崇高さを広く社会に発信し、水石趣味・文化の活性化を実現させましょう!! 興味を持ってシニア世代、若い世代は必ずあなたの身近に存在するはずですよ。

めげずにやりぬく  
「世界遺産」プロジェクト

「盆栽 水石文化保存会」  
盆栽・水石文化を世界(無形文化)遺産に登録する  
運動を推進しています

(二社)全日本愛石協会副理事長  
(二社)日本水石協会理事 西山 巍  
藤岡愛石会会長



(上) 藤岡愛石会の研修会にて、(下) 同・交換会の模様

## ナントカナル

藤岡愛石会で研修会と交換会を行いました。当会の活性化プログラムの一つである「銘石散逸防止」策を検討し、まずは蔵石登録制度の試行から開始する運びとなりました。会員ひとり一人にとって大切な「家宝」を登録し、保存のシステム化を目指します。折しも日本の文化財の多数が所在不明であるとの報道もあり、趣味と文化の成果物を守らなければと意を強くしました。この日は若手新入会員・山村雅顕氏(55歳)を迎えてオークションも盛り上がりました。

今年の日本列島は豪雪、地震、豪雨、洪水、熱帯、台風と自然災害が連続しました。「不都合な真実」から目をそらした故の災害なのでしょう。被災者の皆様には心よりお見舞い申し上げます。

一方で列島の世論を熱くしたのは各界での不祥事でした。政界、実業界さらにはスポーツ界で、いまだに収まりを見せていません。「不都合な事実」を隠蔽した故の事件なのでしょう。知る由もありません。不安と不満が残滓となって心の底に重なりました。

「人は起こしたことで非難されるのではなく、起こしたことにどう対処したかによって非難される」「隠す情報は必ず漏れる」「タイシタコトハナイがエライコトニナル、ナント

カナルがナントモナラナイ、ヨクアルコトがアツテハナラナイコト」。これらは東京商工会議所が17年前に企業経営者向けに発行した小冊子「クライシスコミュニケーション」に記載された言葉です。当時発生した大きな商品クレーム問題への対応の不備を反省したもので、信頼を失いたくないとの守勢の気持ちの中で、つい情報を小出しにし、糊塗しがちな初動への警告です。多くの出来事を、このメッセージで透かして見ると、むべなるかなと思ふものです。

さて、「ナントモナラナイ」前に水石文化を保存せねばと始めた世界遺産PJも早や4年目になりますが、今更、声高に叫ばずとも「ナントカナル」と思う石友は多数かもしれません。はい、愛石趣味は俗人的なレベルで存続はするでしょう。しかし数ある伝統の中で「水石文化」が「戸籍」を得なければ忘れ去られるのです。

7月に佐藤観石氏の著「天皇家と自然石文化」が愛石社から発刊されました。昨年に続き無形文化遺産登録資料の第2弾です。「あとかぎ」には文化消滅の危機感のもと、PJへの参画を呼び掛ける氏の大声が聞き取れます。「クライシス」を共有する全国の石友のご参集を期待しています。

〈ご意見・お問い合わせ等のメール〉 b\_s\_sekaiisan@yahoo.co.



めげずにやりぬく

## 「世界遺産」プロジェクト

〔盆栽 水石文化保存会  
盆栽・水石文化を世界（無  
形文化）遺産に登録する  
運動を推進しています〕

（社）全日本愛石協会副理事長  
（社）日本水石協会理事 西山 巍  
藤岡愛石会会長



藤岡愛石会の三峰川探石会

## 三峰川探石会と「サンマータイム」と「キャン詰」

この夏の異常な高温は、石友の野外活動にも影響したことでしよう。暑さが残る9月初旬は藤岡愛石会の三峰川探石<sup>みぶがわ</sup>でした。幸い曇天に恵まれました。秩父石酔会の高橋稔会長にも合流いただき、現場でご指導を仰ぎました。車10台、24人の多数でしたので、写真撮影後は三峰川上流・下流と小黒川の3グループに散会し、探石を行いました。

ご存知の通り、オリンピックを控えて2019年と2020年限定、6〜8月に2時間繰り上げる「サンマータイム」の導入が話題になりましたが、実施は見送られホッとしました。海外での年2回の夏冬時間切替は面倒なものでした。時計を1時間早める夏時間の初日、前日の就寝前に逆に遅らせてしまつて何食わぬ顔で翌朝2時間の遅刻出勤した現地スタッフがいたことを思い出します。ほんの1時間の時差でも、しばらくは体調変化が続きます。まして2時間、1億総寝不足の懸念もなくなったようです。

「サンマータイム」と聞かされた時に私の記憶が鮮明に甦るのです。その日の朝、私の故郷和歌山県海南市にサイレンが鳴り響き、父が、「今日からサンマータイムだ」と柱時計の針を進める情景です。私が6歳、1948年5月2日のことでした。

この「サンマータイム」から約10年後、なぜか紀州の田舎町に英語塾が盛んであった頃のある日、中学生の私は父に連れられて「アメリカ村」を訪ねました。和歌山県美浜町、日の岬灯台の足元にある小さな町に、カナダ移住者が里帰りして建設した洋風の家並を見ながら父が言いました。

「ここでは缶詰のことを「キャン詰」と言うんだ。英語を勉強しろ」と。

「Yes, I can」と答えたかどうかは記憶にありませんが、親の没年齢に近づくにつれ2つの「英語」と親不孝の数々を思い出します。「親孝行、したい時分に親はなし」。残念。

全国の石友の皆さん、「石の記憶」は鮮明ではありませんか。1つの石が20〜30年前の探石の情景、友人や天候をも思い出させてくれます。石の記念的効用（佐藤観石氏）なのでしょう。「記憶にない」を連呼するお偉い方々には石道への入門を勧めるべきかもしれません。ユネスコには「世界の記憶」という世界遺産があることも記憶しておきましょう。

\*日本では、占領軍の施政下にあった1948年（昭和23年）〜1951年（昭和26年）の間のみ実施されたが、残業増加や寝不足を引き起こすなどとして不評だった。当時の人々やマスメディアの日本語表記は、サンマータイムではなく「サンマータイム」と呼んだ。



# 世界遺産PJ協賛集合写真特集

この1年間、各地で撮影させて頂きながら「世界遺産PJ」コラムでご紹介できなかったグループ写真をここで改めてご紹介させていただきます。ご協力ありがとうございました。



トヨタ豊寿会 (2017年12月、豊田市)



大阪市立大学同窓会 (2017年10月、郡上市)



新名石探訪「愛知県の石」取材 (2018年3月、長久手市)



竹武会尺八演奏会 (2018年4月、杉並区)



五万石盆栽展 (2017年12月、岡崎市)



日本観賞石展 (2018年3月、浅草公会堂)



静岡県水石連盟水石展 (2018年9月、菊川市)



石睦会石展 (2018年6月、名古屋市)